

## 1 主題

### 自ら課題を見付け、自分の意志で学習に取り組む児童の育成

#### 2 主題について

今日、学校教育では、「個別最適な学び」と「協同的な学び」の充実を図ることが急務とされている。児童一人一人が自ら課題を決定し、自分に合った方法を選択して、課題解決していく力を高め、深い学びとしなくてはならない。

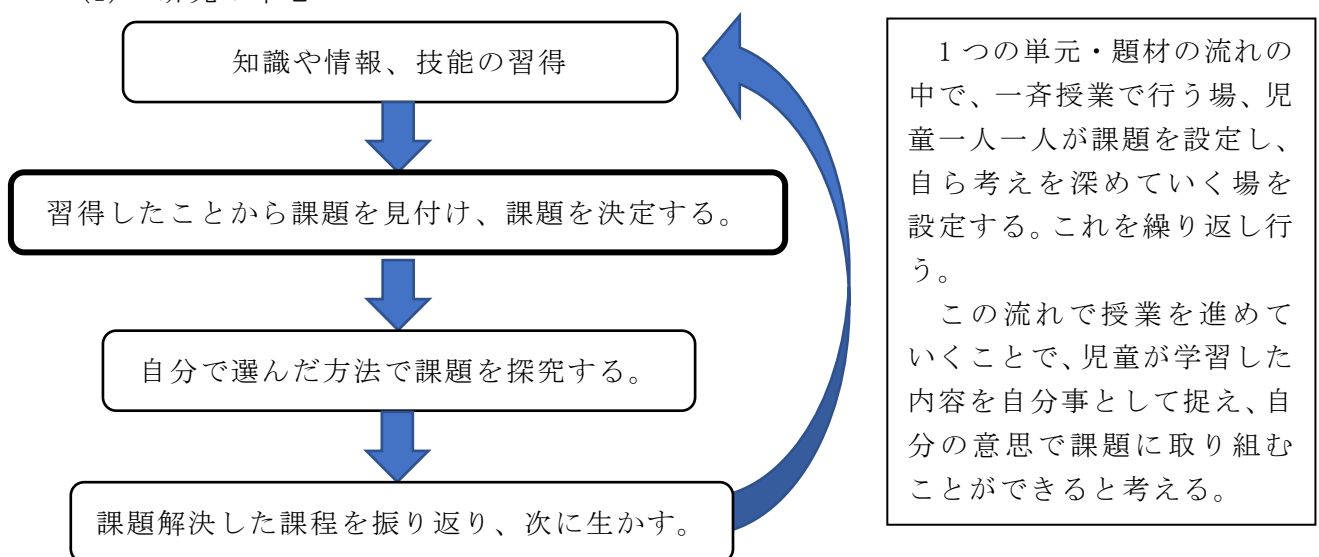
これらを背景として、本校でも実践を進めてきた。特に、指導者の問題や課題に対して、自分の考えをもって、仲間と対話する学習を繰り返してきた。これにより、他者と関わりをもちながら、様々な知識やスキルを身に付けることができた。

しかし、課題を示すのは教師側であることが多く、児童が課題を自ら見付け、決定することが少なかった。また、本校の児童は、決められた課題を決められた方法で行うことはできるが、自分で課題を決めて、課題解決の方法を自分で考えて選択する経験が少ない。一人でも多くの児童が、自分の課題を見付け決定し、課題解決の方法を選択することができるようにしていくことが「個別最適な学び」と「協同的な学び」の充実につながると思う。そのため、知識や情報を得るための場と児童が自分で課題や方法を決定してく場をバランス良く授業に取り入れていく必要がある。

そこで、今年度は、学びの主体は「自分から」を意識させたい。既習事項や生活経験を生かし、まわりの人と一緒に考えながら自ら決定していく力を身に付けさせ、最終的には自ら課題を見付けて、自分の意思で学習に取り組む児童を育てていきたい。

#### 3 努力点の推進方法

##### (1) 研究の中心



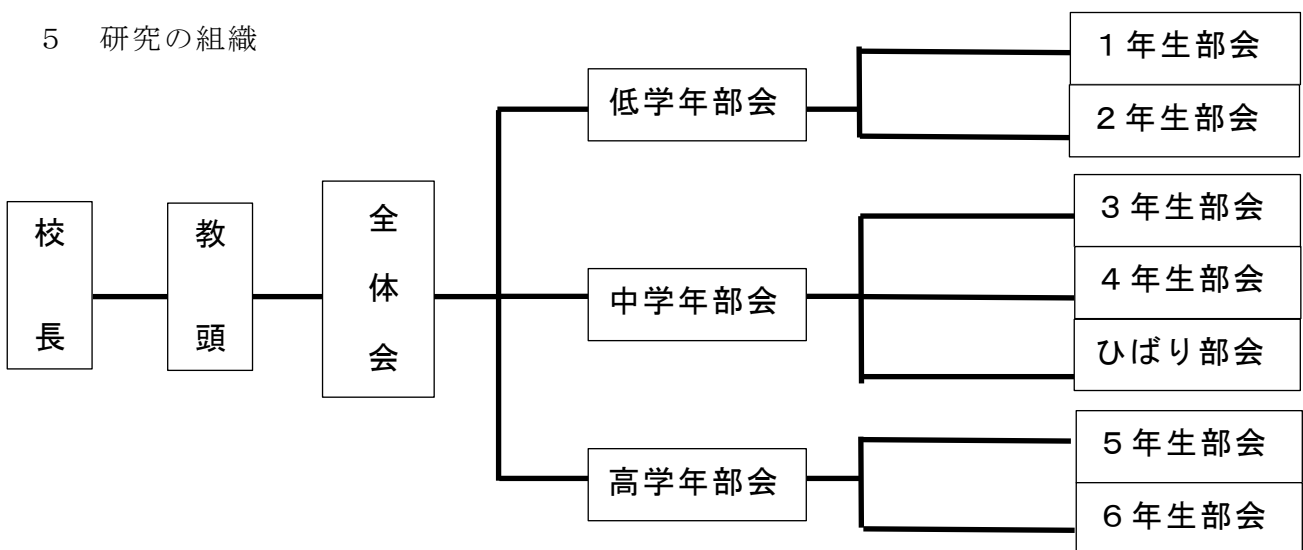
今年度は自ら課題を見付け、決定していく場を中心に研究を行う。次のような手立てで実践を行う。

- ① 授業で得た知識や情報を整理し、その中から必要な事柄を選択し、自分の課題になりそうなことを挙げられるようにする。
  - ② 仲間との対話を通して、自分と違う考えからヒント得る場をつくる。
- (2) 家庭や地域との連携
- 児童にも保護者にも推進の様子を浸透させていくために、実践が終わった月かその翌月の学年日より裏面に写真と文章で児童の様子や感想を載せて伝える。(年2回) また、年に1度は、授業参観で努力点に関わる授業を公開し、家庭や地域に情報提供をする。

#### 4 努力点推進の内容

- (1) 単元・題材の中で、今年度の中心場面の1時間授業を行う。全員が実践に取り組み、指導のあり方を探求する。その際、ねらいを明確にして授業実践を行う。授業は、学年部会で話し合い、授業計画を立てる。
- (2) 授業実践は、前期・後期に分けて、学年ごとに1回ずつ行う。その際、指導案(略案)は全教職員に配布し、適宜参観できるようにする。部会内の職員は学年の内一人は参加できるようにする。
- (3) 代表授業を行う。年に1回とする。  
代表授業は、教職員が努力点の方向性を確認し、より良い実践を行うために行う。代表授業の指導案には、児童の実態と努力点との関わりを載せる。また、その他は略案でよいが、指導過程は詳しく記述する。  
代表授業の指導案作成は、低・中・高学年部会教員と委員長・副委員長が参加して授業者や授業学年の負担が大きくならないように配慮する。また、代表授業の事前・事後の検討会は、実践内容をどのように配慮・工夫すると良いものになるか検討する会とする。
- (4) 学年部会で指導の成果と課題を考え、指導案に記載し報告する。
  - ・ 10月・・・前期実践指導案と成果と課題
  - ・ 2月・・・後期実践指導案と成果と課題

#### 5 研究の組織



※ 養護教諭は、低学年部会に所属する。  
校務主任は、高学年部会に所属する。

## 6 年間計画

月	日	曜日	内 容
4	2 6	水	努力点全体会
5	1 5	月	学年研究会
6	8	木	学年研究会
7	3	月	学年研究会
9	1 4	木	努力点全体授業事前検討会
9	2 1	月	努力点全体授業事後検討会
1 0	1 2	木	努力点中間報告会
1	1 5	月	学年研究会
2	2 2	木	努力点最終報告会